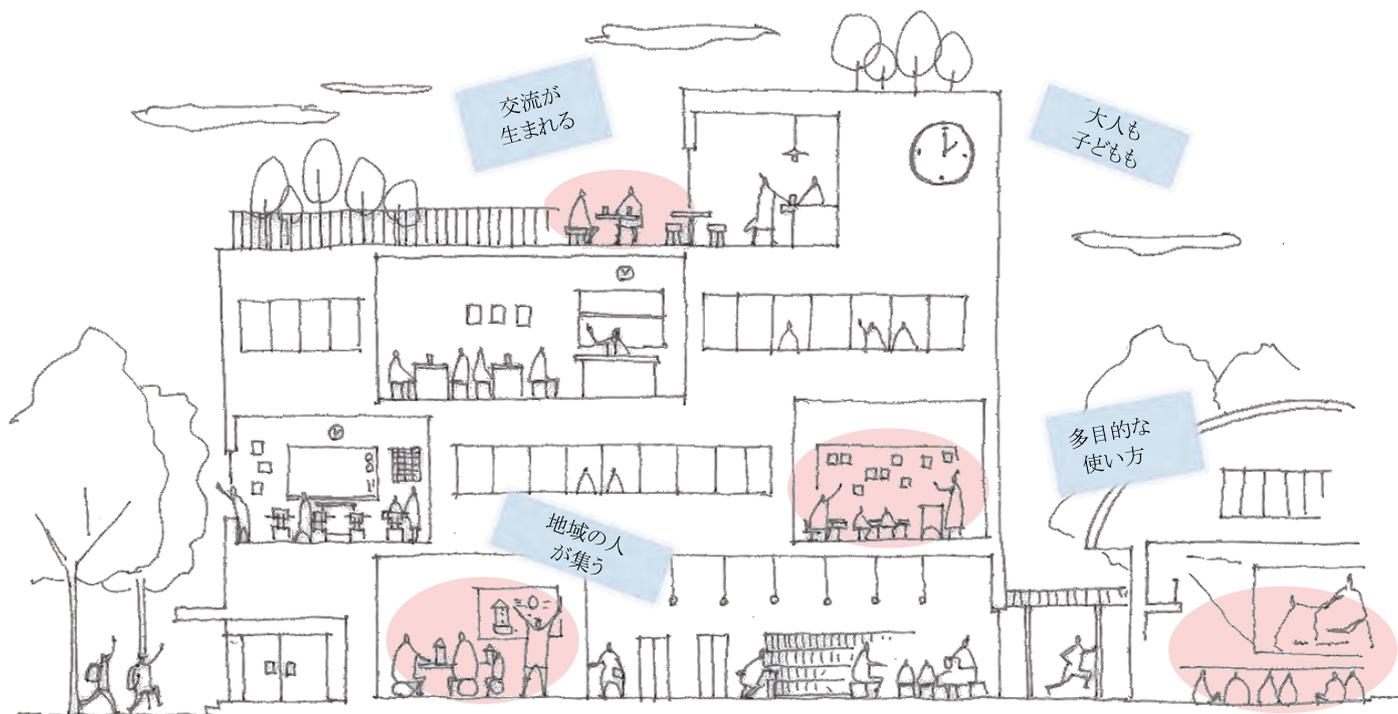


## D 学校

### IV. 再編後のイメージ例



- 適正な学校規模を維持するとともに、地域の拠点となることで、多世代で多様な人々の交流や公益的なサービスが展開される場になります。

## V. 今後の方向性

集約

複・多

長寿

活用

年少人口の減少が見込まれる中でも、児童・生徒が良好な学習環境で学べるよう、段階的に必要な**適正規模・適正配置**を実施する。また、学校施設の適正な維持・管理のため建物の長寿命化や計画的な建替えを実施する。さらに、学校施設の有効**活用**や他機能との**複合化・多機能化等**により、多様な人々が交流し活動する場を創出し、愛着ある地域拠点施設とする。こうした取り組みを通じて、建物の総量圧縮を図る。

- ✓ 将来の児童・生徒数の減少に対応した**適正規模・適正配置**を実施する。
- ✓ 建物の大規模改修や建替えを計画的に実施する。
- ✓ 教育活動で使用しない教室数の状況や建物の大規模改修・建替えの時期を捉え、周辺の公共施設等の複合化を実施する。

## ▽取り組みの時期

**短期（2018～2026年度）→最初の9年間**

- ・ 中期に実施する**適正規模・適正配置**実行計画を策定する。
- ・ 長寿命化が適する建物の大規模改修を実施するとともに、周辺の公共施設の複合化を検討及び実施する。
- ・ プール等の付帯施設について、隣接校での供用や、温水プール及び民間施設の活用等によるプールの集約を検討及び実施する。

**中期（2027～2036年度）**

- ・ **適正規模・適正配置**の実施による大規模改修や建替えにあたっては、周辺の公共施設の複合化を検討及び実施する。

**長期（2037～2055年度）**

- ・ **適正規模・適正配置**の実施による大規模改修や建替えにあたっては、周辺の公共施設の複合化を検討及び実施する。【継続】

9  
年間  
短期再編  
プログラム  
2018~2026

● 学校 短期再編プログラム

主たる担当部門：学校教育部

○ 9年間(2018年度～2026年度)の取り組み

- ・ 地域や学校関係者の理解を得ながら、中期に実施する適正規模・適正配置実行計画を検討・策定する。
- ・ 他の公共施設との複合化について、基本的な考え方（方向性）を整理したうえで、適正規模・適正配置実行計画の策定過程において、学校毎の複合化を検討する。
- ・ 適正規模・適正配置実行計画に基づき、計画的に大規模改修や建替えを検討及び実施するとともに必要（適切）な施設の維持補修等を行う。
- ・ プール等の付帯施設について、隣接校プールの供用や市有の温水プール及び民間施設の活用等によるプール授業の実施により、施設の集約を検討及び実施する。

○ スケジュール

取り組み	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
適正規模・適正配置実行計画の策定	実行計画の策定				学校再配置の調整				
複合化の検討	検討								
大規模改修・建替えの実施		鶴川第一小学校の建替え		町田第一中学校の建替え	その他の学校の 大規模改修または建替え				
プール等付帯施設集約の検討及び実施	検討			実施					

○ 留意事項

- ・ 2017年度健全性調査実施（17施設）
- ・ 学校施設の複合化の検討体制
- ・ 施設内のセキュリティ・動線の確保
- ・ 複合施設の管理体制の検討
- ・ 地域の防災拠点機能の再編

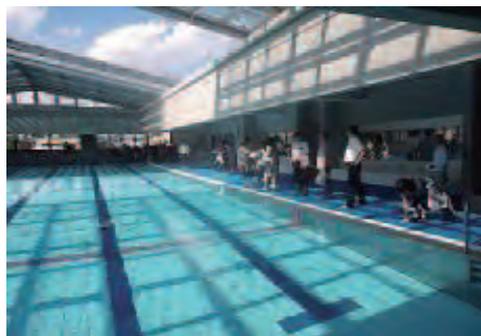
～こんな取り組みも始まっています～

### 豊島区池袋本町地区校舎併設型小中連携校

2016年6月に豊島区で初となる校舎併設型の小中連携校が、2校を統合した小学校と1校の中学校を同一敷地に併設して整備されました。基本的には小学校と中学校が区分されていますが、学習情報センター（ICT環境を完備した図書館・学習スペース）、プール、職員室、主事室、事務室などは小中学校共用とした効率化が図られています。また、小中学校連携により、9年間の学びに連続性を確保しカリキュラムに配慮した学習指導が行うことや、小中学校教職員相互の連携が生みやすくなることも目指しています。



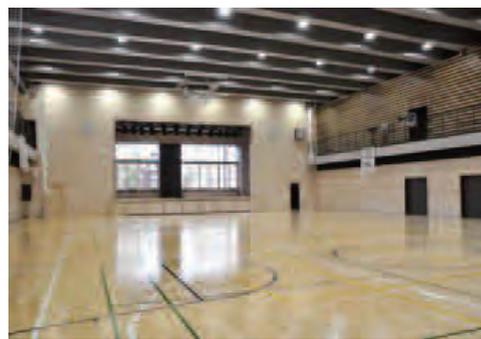
小・中学校校舎、小学校運動場



プール



学習情報センター



小学校体育館

出典：豊島区  
ホームページ